



鈴木 靖宏 議員(蒼生会)

災害復旧・復興と
今後の計画について

Q 災害廃棄物処理計画どおりに廃棄物処理が進んだのか、チェックしたい。

A 市民生活部長

災害廃棄物処理計画に基づいて処理等については行いましたが、対応マニュアルがまだできていませんでした。したがって、対応において反省すべき点も幾つかあります。例えば仮置き場の確保と搬入に関する周知方法です。2つ目は、被災地域に集積された災害ごみの回収が後手に回ったこと、3つ目は、仮置き場に必要ない人員、資機材、重機の確保、4つ目は、災害ごみの搬出ルートの確保などです。

今回の災害対応についての幾つかの反省点などを踏まえ、また地域の皆様のご意見などを聞きながら、今後の災害時対応マニュアル作成に生かしていきたいと考えています。



本郷 淳一 議員(公明党議員会)

台風19号の被害について

Q 多くの被災者から川底ざらいや堤防を高く強固にしてほしいとの要望を聞いており、今後川底ざらいを実施するとともに、原形復旧ではなく、防災機能を高める改良復旧が大変重要であると考えます。今後本市としてどのような対応を講じていく考えか伺いたい。

A 都市建設部長

安心して生活できる環境を構築できるよう栃木県に対し、河川改修計画に基づいた改良復旧を早期に実施していただけるよう要望します。

また、河川断面の拡張や堤防の裏側までコンクリートで覆う巻堤及び破堤をおくらせる堤防天端の舗装など、現状より強固な堤防の検討や、流れを阻害されないように川の中の土砂等を※しゅんせつすることなど、あわせて要望します。

※しゅんせつ
(浚渫)とは・・・

水底の土砂や岩石をさらうことをいいます。



金子 保利 議員

台風19号について

Q 台風19号は、佐野市民を恐怖におとしめ、甚大なる被害を招いてしまっただ。今回の大災害に陥った原因というのは、400ミリを超えるような豪雨が各地で起こってしまったということだと思いが、要因はどのようなことと捉えているか、伺いたい。

A 行政経営部長

被害の要因については、10月12日、1日の総雨量が葛生豊代で410ミリ、秋山の観測所で471ミリ、作原観測所では377ミリの大雨による河川の決壊、氾濫と土砂災害です。

